

重点目標	長期経営目標	短期経営目標	主な取り組み ○数字が具体項目	評価指標 下線部分が指標（3年後）	中間評価	自己評価	年度末達成状況・改善方策 評価表示方法… <b>達成</b> <b>未達成</b>	学校関係者 講評	関係者 評価
【学力向上】	意欲的に学ぶ子の育成	<p>(1)「Basicガイドブック」を活用した授業づくりを進め「学力」を保障する。</p> <p>(2)中山間地域における特色ある学校づくりを励行し、多様な学習機会を確保しつつ、探究的な学習活動を実践する。</p> <p>(3)ICTを活用するとともに、ユニバーサルデザイン(UD)を意識した環境整備や授業づくりを行う。</p> <p>(4)読書活動の質と量の向上を目指す。</p>	<p>(1)学力向上の取り組み</p> <p>①Basicガイドブックの活用。特に、「めあて・まとめ・ふりかえり」活動を重点化。</p> <p>②家庭学習の意欲付け、家庭への啓発実施。</p> <p>③全国学力調査や県版学力調査の分析と、習熟の弱い箇所の復習の実施。</p> <p>(2)生活科・総合的な学習等の探究的授業づくり</p> <p>①9年間のカリキュラムを作成・共有する。</p> <p>②探究的な学習となる授業づくり実践。</p> <p>③研究可視化の取り組み。研究通信発行・授業づくり関係の資料提示・研修等で、学年の取り組みを可視化し共通理解を図る。</p> <p>(3)ICTの活用と、授業へのUDの意識化</p> <p>①ICT機器の授業活用。②校内研修の実施。③UDを意識した授業づくり。(板書や発話の認知心理学的側面への教員の意識向上。)</p> <p>(4)読書活動の充実</p> <p>①読書通帳や村立図書館からの貸出、利用呼び掛けを通して、読書冊数の向上を図る。</p>	<p>(1)Basicガイドブックを用いた授業づくり</p> <p>①「Basic」授業での重点項目実施率:90%</p> <p>②「家庭学習をしている」肯定的評価:85%</p> <p>③高知県学力状況調査・埼玉県版等の学力調査で全国平均を目指す。(国語・算数共に-5p以内)</p> <p>(2)探究的な学習活動の実施</p> <p>①教師・児童が、「各学年の取組が分かる」という肯定的回答90%以上</p> <p>②質問紙調査で、「主体的に学習活動に関わること」への肯定的評価:70%。児童の様子や記録から授業への肯定的評価:80%</p> <p>③授業の板書等の記録紹介。研究便り発行。</p> <p>(3)ICT機器の導入</p> <p>①ICT機器をほぼ毎日活用:100%</p> <p>②校内研修の月1回実施、若しくは校外研修の呼びかけ。</p> <p>(4)読書活動の充実</p> <p>①目標冊数の達成。低学年(100冊)、中学年(70冊)、高学年(45冊):それぞれ70%以上。また、読書アンケートの肯定的回答:85%</p>	<p>(1)Basicガイドブックを用いた授業づくり</p> <p>①「Basic」授業での重点項目実施率:現状100%</p> <p>②「家庭学習をしている」現状:週5日以上できた→低73.7%、中81.8%、高78.4%</p> <p>③高知県学力状況調査・埼玉県版等の学力調査で全国平均を目指す。(国語・算数共に-5p以内)→埼玉県版4年・5年生は、概ね達成。 ●5年算数-7.4%、他の学年の算数にも弱さ。</p> <p>(2)探究的な学習活動の実施</p> <p>①略</p> <p>②質問紙調査で、「主体的に学習活動に関わること」への肯定的評価:現状89.6%</p> <p>③授業の板書等の記録紹介。研究便り発行。→板書紹介実施済。研究便り103号。</p> <p>(3)ICT機器の導入</p> <p>①ICT機器の毎日活用:現状100%</p> <p>②校内研修の月1回実施、校外研修の呼びかけ。→よく実施・参加している。</p> <p>(4)読書活動の充実</p> <p>①週1回以上の図書館利用:現状→本校41.4%、全国13.4%</p>	B	<p>(1)Basicガイドブックを用いた授業づくり</p> <p>①「Basic」授業での重点項目実施率:現状100%</p> <p>②「家庭学習をしている」→低73.6%、中84.7%、高70.9%、目標未達。</p> <p>③高知県学力調査・ベネッセ学力調査等の学力調査で全国平均を目指す。(国語・算数共に-5p以内)→ベネッセ(1～3年)は、国算共、目標値達成。→高知県版4・5年生は、国語は2%以内で達成。 ●何れの調査も「算数:基本」に大きな弱さ。</p> <p>(2)探究的な学習活動の実施</p> <p>①他学年の授業の掲示、研究通信の紹介等により、他の学年の取組みは理解できている。</p> <p>②質問紙調査で、「主体的に学習活動に関わること」への肯定的評価:89.6%</p> <p>③授業の板書等の記録紹介。研究便り発行。→板書紹介実施済。研究通信210号。</p> <p>(3)ICT機器の導入</p> <p>①ICT機器活用・②校内研修の月1回実施、校外研修の呼びかけ。→よく実施・参加している。</p> <p>(4)読書活動の充実</p> <p>①週1回以上の図書館利用:現状 →本校41.4%、全国13.4%「本が好き」回答:80% →貸出目標冊数到達児童は、47.8%</p>	算数の「基本」が苦手な子に対する指導が難しいのは理解できる。早い段階での「量」による克服も検討して欲しい。 本の貸し出し状況については、実際の読書習慣と貸し出し冊数との間で、乖離がある児童もいるのではないかと。	B
【心の教育】 (相手への配慮)	自分と友だちを大切に する子の育成  居心地の良い 学校・学級づくり	<p>(1)道徳的な心情を育み、<b>自他共に大切に</b>する児童の育成を図る。</p> <p>(2)学校や学級への肯定的意識・充足感を高め、<b>学級・学校で元気に活動</b>できる場を保障する。</p> <p>(3)不登校の抑止・改善となる<b>児童の状態・教育的ニーズに応じた支援</b>の充実を図る。</p>	<p>(1)道徳教育の充実</p> <p>①「高知の道徳」を授業中や、家庭と連携して取り組む。「フレンズカード」の活用。</p> <p>(2)児童の自己有用感・自尊感情・他者への共感的理解を高める活動の計画</p> <p>①児童主体の活動(係活動等の特別活動)に取り組みキャリア教育の視点から活動を計画。</p> <p>②児童への肯定的・支持的な声かけの励行。</p> <p>(3)児童の状態像・ニーズの把握</p> <p>①長期休業中等に校内研修会の実施。</p> <p>②外部専門家(SC・SSW等)の支援会参加。</p> <p>③学級経営に関わる情報交換会の実施。</p>	<p>(1)道徳教育の充実</p> <p>①道徳アンケート「自分にはよいところがある」肯定的回答:75%</p> <p>(2)自己有用感・他者理解</p> <p>①②Q-Uアンケート「学校生活満足群」:60%以上</p> <p>(3)児童の状態像・ニーズの把握</p> <p>①年間1回以上の校内研修。</p> <p>②月1回以上の校内支援会の実施。</p> <p>③長期欠席児童:3人以内 新規不登校児童:ゼロ</p>	<p>(1)道徳教育の充実</p> <p>①道徳アンケート「自分にはよいところがある」肯定的回答:現状83.0%</p> <p>(2)自己有用感・他者理解</p> <p>①②Q-Uアンケート「学校生活満足群」:現状58%</p> <p>(3)児童の状態像・ニーズの把握</p> <p>①年間1回以上の校内研修。</p> <p>②月1回以上の校内支援会の実施。 →①②とも実施済。</p> <p>③長期欠席児童:3人以内 内新規不登校児童:現状、1名。 →教室に入れない児童の居場所づくり必要。</p>	B	<p>(1)道徳教育の充実</p> <p>①道徳アンケート「自分にはよいところがある」肯定的回答:現状81.8%</p> <p>(2)自己有用感・他者理解</p> <p>①②Q-Uアンケート「学校生活満足群」:62.4%</p> <p>(3)児童の状態像・ニーズの把握</p> <p>①年間1回以上の校内研修。</p> <p>②月1回以上の校内支援会の実施。 →①②とも、引き続き実施済。</p> <p>③長期欠席児童:4人(新規児童:2名。現在引き続き欠席している児童は、1名にまで改善。) →教室に入れない児童の居場所づくりは継続。</p>	不登校・欠席児童に対する活動は、とてもしっかりと行っていると感じる。	B
【健康教育】 (食育・体力)	心身ともに元気な 子の育成	<p>(1)「睡眠・食事」等の<b>基本的な生活習慣</b>を確立する。</p> <p>(2)自ら進んで体を鍛える児童を育成する。</p>	<p>(1)基本的な生活習慣に関わる指導</p> <p>①睡眠についての保健指導を継続し、早寝早起きへの意識付けを図る。</p> <p>②朝食の大切さの指導・啓発や、朝食を食べない児童を「生活カード」や「朝食アンケート」で把握し、個別に声かけを行う。</p> <p>③おいしい給食の提供と給食指導の充実。</p> <p>④家庭向け通信の発行。</p> <p>(2)体力向上に関わる指導</p> <p>①体育授業での副読本の活用。</p> <p>②授業や朝の会等の業間での「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の活用。</p>	<p>(1)基本的な生活習慣に関わる指導</p> <p>①生活調査から「早寝早起き」:60%以上</p> <p>②生活調査「朝食未摂取」:10%以下</p> <p>②③④朝食アンケート「朝食をとることは大切である」:90%以上</p> <p>(2)体力向上に関わる指導</p> <p>①体育授業での副読本の指導例や児童の振り返り欄等の活用:90%以上</p> <p>②体力テスト総合評価DE群の児童の割合:10%以下(3年後の指標)</p>	<p>(1)基本的な生活習慣に関わる指導</p> <p>①生活調査から「早寝早起き」:現状:早寝59%、早起73%</p> <p>②中間評価時は、省略。</p> <p>②③④中間評価時は、省略。</p> <p>(2)体力向上に関わる指導</p> <p>①体育授業での副読本の指導例や児童の振り返り欄等の活用:現状、概ね100%</p> <p>②体力テスト総合評価:DE群の児童の割合:中間時17.4%(達成)</p>	A	<p>(1)基本的な生活習慣に関わる指導</p> <p>①生活調査から「早寝早起き」:早寝64%、早起69%</p> <p>②生活調査「朝食未摂取」:4.9%</p> <p>③「朝食をとることは大切である」:94.5%</p> <p>④おいしい給食の提供と給食指導の充実。 →生活・総合学習や家庭科と関連付けた指導。</p> <p>④家庭向け通信のは、月1回程度発行済。</p> <p>(2)体力向上に関わる指導</p> <p>①体育授業での副読本の指導例や児童の振り返り欄等の活用:100%</p> <p>②体力テスト総合評価DE群の児童の割合:11.4%</p>	「早寝早起き」は、さらに向上させたい。 メディア利用に関して、取り上げを検討してもらいたい。 以前、気になっていた「肥満」に関しても取り上げて欲しい。	A
【安全対策】 【危機管理】	災害から身を守る 子の育成  安全教育・安全管理が充実した 学校	<p>(1)児童が自分で自分の<b>命を守る</b>ことができる安全教育を実施する。</p> <p>(2)安全指導、及び安全管理が定期的・組織的に 行われている。</p>	<p>(1)防災教育の充実</p> <p>①「高知県安全教育プログラム」に基づく防災を中心にした授業を実施する。</p> <p>②校内避難訓練だけでなく校外の避難場所への避難の仕方を学ぶ。事前事後指導の充実。</p> <p>(2)防犯・交通事故やインターネット犯罪等への意識の向上</p> <p>①交通安全教室・登下校等の防犯指導実施。</p> <p>②校内安全点検の励行。</p>	<p>(1)防災教育の充実</p> <p>①②1年間で、防災学習を5時間以上、避難訓練を中心にした授業を実施。(校内避難訓練含む。)</p> <p>①②学校評価アンケート「避難の仕方について」肯定回答:80%以上</p> <p>(2)安全意識の向上(交通安全・防犯・SNS等)</p> <p>①交通安全教室・登下校等の防犯指導の実施。</p> <p>②校内安全点検を学期に1回は実施。</p>	<p>(1)防災教育の充実</p> <p>①②避難訓練:現状、4回実施済。</p> <p>①②省略。</p> <p>(2)安全意識の向上(交通安全・防犯・SNS等)</p> <p>①交通安全教室・登下校等の防犯指導の実施:→実施済。</p> <p>②校内安全点検を学期に1回は実施。 →1学期末、並びに都度実施済。</p>	A	<p>(1)防災教育の充実</p> <p>①②避難訓練:5回実施済。 5回目は、防災イベント開催。</p> <p>①②「避難の仕方について」肯定回答:98.8%</p> <p>(2)安全意識の向上(交通安全・防犯・SNS等)</p> <p>①交通安全教室・登下校等の防犯指導の実施:→実施済。</p> <p>②校内安全点検を学期に1回は実施。 →学期末、並びに都度実施済。</p>	【本項目に、特段のご意見は、ございませんでした。】	A
【保幼小中 連携】  【保護者・ 地域連携】	保幼小の円滑な 接続  小中連携の推進  地域に学ぶ 子の育成	<p>(1)就学前機関との<b>円滑な接続</b>を図る。</p> <p>(2)生活科・総合的な学習の時間を基調としつつ、<b>芸西中学校や地域と連携</b>した学習活動を実践する。</p>	<p>(1)合同学習会・園内研修等への相互参加</p> <p>(2)公開授業参加・文書の相互配布、行事への参加等による連携の推進</p> <p>(3)地域と関わった学習活動の計画。行事や活動での相互交流</p>	<p>(1)(2)(3)校種間交流・連携</p> <p>①②教員(園児・児童生徒)による活動・行事や研修での相互交流。研究通信・家庭向け文書の相互配布。</p> <p>③地域の人材バンクや特産品等を生かした小中9年間の系統的な指導計画の編成周知。</p>	<p>(1)(2)(3)校種間交流・連携</p> <p>①②教員(園児・児童生徒)による活動・行事や研修での相互交流。研究通信・家庭向け文書の相互配布。→中学校との合同研修・相互交流はともに実施済。幼稚園とは、2学期末以降実施予定。</p> <p>③地域の人材バンクや特産品等を生かした小中9年間の系統的な指導計画の編成周知。→実施済。</p>	A	<p>(1)(2)(3)校種間交流・連携</p> <p>①②③学校間の相互交流。→中学校:合同研修等年6回、連絡会月1回、相互授業も実施済。幼稚園:1日体験入学等交流、園内研修等参加。 →9年間の指導計画作成済。学習発表会・防災イベント等での外部発表。人材バンク運用開始。すぐへの活用。ホームページでの紹介開始。</p>	「すぐーる」に関しては、さらに活用する可能性が残っているのではと期待する。	A